

ともみ 松浦よかとこ大使に梶山友美さん

各イベントで松浦市の魅力をPRする松浦よかとこ大使に梶山友美さん（御厨・前田）が選ばれました。

梶山さんは、高校に入るとき旧田平町から御厨町に住まいを移し、現在は家事手伝いをしている23歳。人見知りせず、誰とでもすぐ仲良くなれるという梶山さんは「家族や友人の後押しがあり、初めて応募しました。選

ばれてビックリしています。松浦の自然豊かなところが好きです。山や海の特産品をはじめ、松浦の人の温かいところをPRしたいと思っています」と話していました。



胡弓などの音色に触れる

音楽愛好家グループ「オルゴールの会」（山口礼子代表世話人）主催の思い出の色コンサートが10月15日、文化会館で開催されました。

7回目を数える今回のコンサートでは、おなじみの山口修さん、純子さん夫妻のギターとソプラノの共演に合わせて、胡弓奏者として国内外で活躍する趙国良さんが共演。山口代表世話人作詞の「友への哀歌」や「荒城の月」「花」など17曲を披露しました。会場に訪れた210人の観客は、鳥の鳴き声や馬のいななきなども表現できる胡弓の多彩な音色を堪能しました。

この日の収益金は、市立図書館への児童図書への寄贈とユニセフ募金に活用されました。

星鹿コミセンで竹の響き

「バンブーオーケストラキャラバンツアー2006」が10月17日、星鹿コミュニティセンターで開催され、バンブーオーケストラ・ジャパンと星鹿バンブーオーケストラのメンバーが共演しました。

松浦の竹を使って楽器を作り、音を奏でようと活動をはじめた星鹿バンブーオーケストラが、東京を拠点に活動しているバンブーオーケストラ・ジャパンに指導を受けたのが縁で、今回で2回目となります。

この日は、両グループがオリジナル曲や「島唄」「八木節」などを披露しました。また、両グループ合同で「コンドルは飛んでいく」を演奏し、会場を訪れた約150人の観客は、バンブーの音に魅了されていました。



市代表牛を選考

繁殖牛の品評会が10月5日、ながさき西海農協松浦営農経済センターで開催されました。

和牛改良の成果を確認し、県産「ながさき和牛」の推進を図ることを目的に開かれたものです。

この日は、市内7地区の予選を勝ち抜いた31頭が、年齢別に分けられた5部門に出場。農協職員や県の畜産担当者が発育状態や脂質、肉の付き具合などを審査しました。

成績上位の15頭は市代表牛として、11月2日に平戸口中央家畜市場で行われる第2回県北地域和牛共進会に出場します。

とき

vol.10

旬の人

長崎県3大会に 松浦市代表として出場

志佐少年ソフトクラブ



志佐少年ソフトクラブは、今年度長崎県ソフトボール協会が主催した第20回全日本小学生ソフトボール長崎県大会、第33回長崎県少年ソフトボール大会、第17回小学生選抜長崎県大会の小学生の部3大会すべてに、松浦市代表として出場を果たしました。

同クラブは6年生9人、5年生8人、4年生9人、2年生3人のチームで、太田雄三監督ゆうさう以下2人のコーチの指導のもと、毎日練習に励んでいます。キャプテンの湯浅寛史君ひろふみ（志佐・中町、11）は「練習や試合ではチームのみんなと大きな声を出し合うようにしています。監督やコーチは厳しいけど、よくわかるように教えてくれます。2月にある試合でも勝ちたいです」と話してくれました。

また、太田監督は「監督を引き受けたときは、元気がない、あいさつもしないチームでした。大きな声を出して練習させることで子どもたちも前向きな姿勢をみせはじめ、試合でのプレッシャーに強くなり結果を残すことができたと思います。大会ではレベルの差を感じますが、子どもたちが中学校、高校と進んだときに、他に出遅れない、将来を見据えた技術指導を行っていきたいです」と話していました。

